



岐阜県政記者クラブ加盟社 各位

令和6年11月8日(金) 岐阜県発表資料			
担当課	担当係	担当者	電話番号
広報課	管理広聴係	古野 古田	内線 2132 直通 058-272-1118 FAX 058-278-2506

第47回県政世論調査結果について

このたび「第47回県政世論調査」の結果を取りまとめましたので、お知らせします。

1 調査の概要

(1) 調査の目的

県民意識の把握とともに、県行政に対する県民の関心、満足度等を調査し、県政推進の基礎資料とする。

(2) 調査の経緯

昭和42年から実施、今回47回目

※昭和42年～昭和61年：毎年実施、昭和63年～平成18年：隔年実施、平成20年～：毎年実施

(3) 調査項目

15問

(4) 調査時期

令和6年7月1日～24日

(5) 調査の設計

・調査対象 県内に居住する満18歳以上の男女個人

・標本数 3,000人

・抽出方法 層化二段無作為抽出法

※県内をブロックごとに分類し(層化)、各層に調査地点を人口に応じ比例配分し、国勢調査における調査区域及び住民基本台帳を利用して(二段)地点ごとに一定数のサンプル抽出を行うもの。

・調査方法 郵送法・オンライン調査法の併用(オンラインはR3から実施)

・有効回答数、回答率

実施年度	標本数	回答数	回答率	有効回答数のうち オンライン回答数・割合
第47回(令和6年度)	3,000	1,699	56.6%	458・27.0%
第46回(令和5年度)	3,000	1,758	58.6%	416・23.7%

2 結果の概要

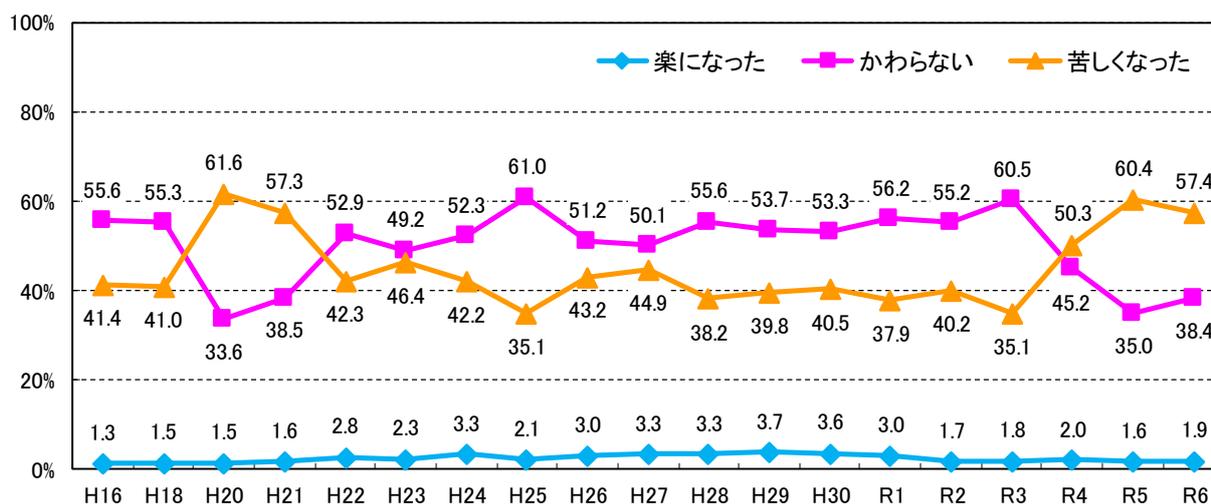
1 暮らしについて

1. 暮らし向きや暮らしの満足度 <問1、2>

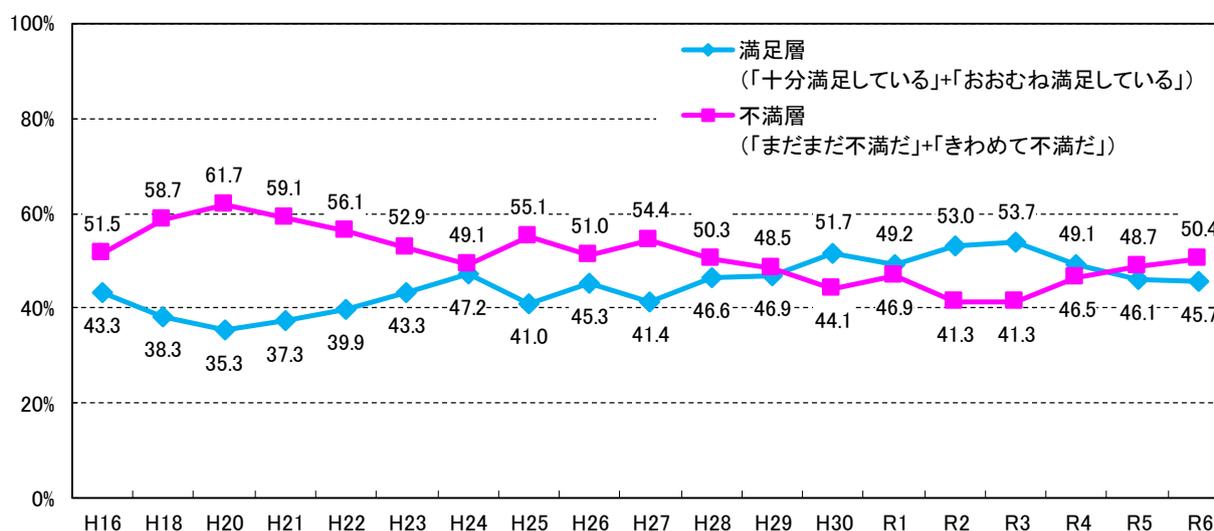
暮らし向きは「苦しくなった」が約6割を占め、暮らし全般の満足度は「不満層」が増加し、2年連続「満足層」を上回った

- ・家庭の暮らし向きは、「苦しくなった」が57.4%（前年に比べて3.0ポイント減少）、「楽になった」が1.9%（前年に比べて0.3ポイント増加）、「かわらない」が38.4%（前年に比べて3.4ポイント増加）となっている。
- ・暮らし全般の満足度は、「十分満足している」と「おおむね満足している」をあわせた「満足層」が45.7%（前年に比べて0.4ポイント減少）、「まだまだ不満だ」と「きわめて不満だ」をあわせた「不満層」が50.4%（前年に比べて1.7ポイント増加）となり、2年連続「不満層」が「満足層」を上回った。

◆暮らし向き



◆暮らし全般の満足度



2. 暮らしの中で感じる不安や今後重視したいこと <問3、4>

暮らしの中で感じる悩みや不安の主な要因は、「健康・体力」が最も高い。今後重視していきたいことも同じく「健康・体力」が前年に続き最も高く、6割を超えている

- ・暮らしの中で感じる悩みや不安の主な要因は、「健康・体力」が67.2%（前年に比べて1.0ポイント増加）、次いで「収入・貯蓄」が61.7%（前年に比べて1.0ポイント減少）となっている。
- ・今後の暮らしの中で重視していきたいことは、「健康・体力づくり」が63.7%と前年に続き最も高く、次いで「家計の安定・充実」（50.8%）となっている。

◆暮らしで感じる悩みや不安

順	項目	R6	R5 (順)	前年比
1	健康・体力	67.2%	66.2% (1)	1.0
2	収入・貯蓄	61.7%	62.7% (2)	▲1.0
3	介護	26.4%	24.3% (4)	2.1

◆今後重視していきたいこと

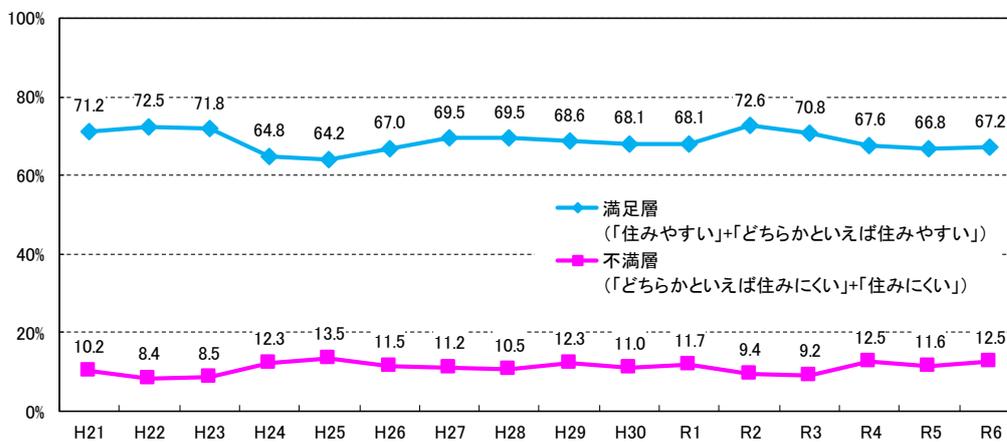
順	項目	R6	R5 (順)	前年比
1	健康・体力づくり	63.7%	64.3% (1)	▲0.6
2	家計の安定・充実	50.8%	53.0% (2)	▲2.2
3	老後の生活への準備	41.0%	43.9% (3)	▲2.9

3. 住んでいる地域の住みやすさ、岐阜県での定住傾向 <問6、7>

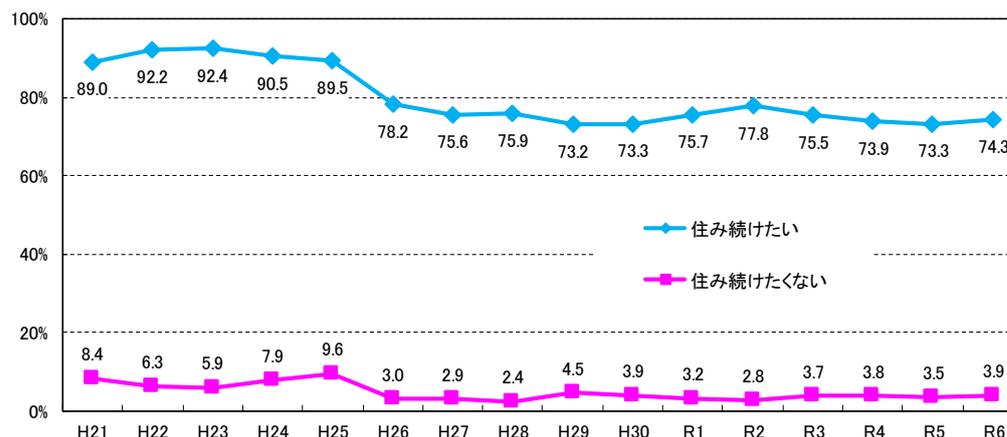
住みやすさの評価は、前年に続き約7割が「住みやすい」と感じており、4人に3人が「岐阜県に住み続けたい」としている

- ・現居住地が「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」をあわせた「満足層」が67.2%（前年に比べて0.4ポイント増加）、「どちらかといえば住みにくい」と「住みにくい」をあわせた「不満層」が12.5%（前年に比べて0.9ポイント増加）となっている。
- ・「岐阜県に住み続けたい」が74.3%と引き続き高い水準となっている。

◆住みやすさ



◆定住志向



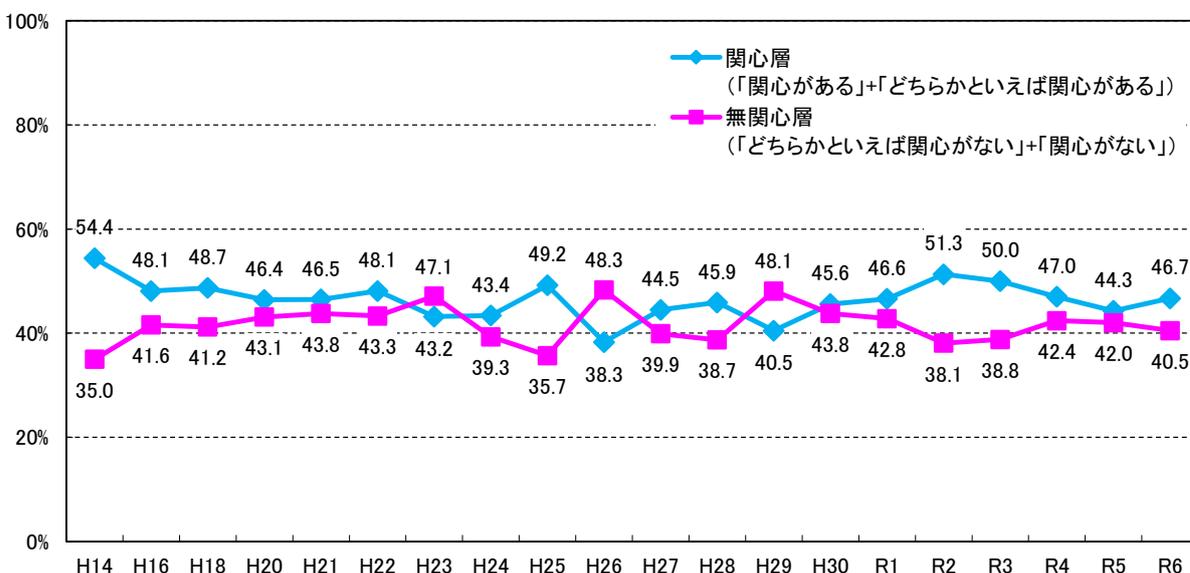
2 県の取組み全般について

4. 県事業への関心の有無 <問9、9-2>

県事業への関心は、7年連続で「関心層」が「無関心層」を上回っている

- ・ 県事業に対しては、「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」をあわせた「関心層」が46.7%（前年に比べて2.4ポイント増加）、「どちらかといえば関心がない」と「関心がない」をあわせた「無関心層」が40.5%（前年に比べて1.5ポイント減少）となり、7年連続で「関心層」が「無関心層」を上回っている。
- ・ 関心がない理由は、「県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから」が35.8%と前年に続き最も高くなっている。

◆県事業への関心の有無



◆県事業に関心がない理由

順	項目	R6	R5 (順)	前年比
1	県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから	35.8%	33.2% (1)	2.6
2	自分たちの意見が反映されるとは思えないから	21.8%	24.5% (2)	▲2.7
3	県がどのような仕事をしているのか知らないから	20.3%	21.0% (3)	▲0.7

5. 県の取組み姿勢について <問10>

県の取組みで、よくやっていると思う分野は「防災対策」、努力が足りないと思う分野は「若者の県内定着」が前年に続き最も高くなっている

- ・ 県の取組みでよくやっていると思う分野は、「防災対策」(25.7%)、「道路整備・維持管理」(14.9%)、「高齢者福祉」(14.5%)の順となっている。
- ・ 県の取組みで努力が足りないと思う分野は、「若者の県内定着」(20.6%)、「少子化対策」(19.9%)、「高齢者福祉」(17.7%)の順となっている。

◆県の取組みでよくやっていると思う分野、努力が足りないと思う分野

よくやっている					努力が足りない				
順	項目	R6	R5 (順)	前年比	順	項目	R6	R5 (順)	前年比
1	防災対策	25.7%	24.2% (1)	1.5	1	若者の県内定着	20.6%	19.0% (1)	1.6
2	道路整備・維持管理	14.9%	14.3% (2)	0.6	2	少子化対策	19.9%	17.5% (2)	2.4
3	高齢者福祉	14.5%	13.4% (5)	1.1	3	高齢者福祉	17.7%	15.4% (5)	2.3
4	地域医療の確保	12.9%	14.2% (3)	▲1.3	4	公共交通の充実	17.1%	16.7% (3)	0.4
5	観光振興	12.4%	11.2% (8)	1.2	5	子育て支援	15.2%	15.9% (4)	▲0.7
〃	河川整備・維持管理	12.4%	11.1% (11)	1.3					

6. 重点的に進めるべきだと思う分野 <問11>

今後、県が重点的に進めるべきだと思う分野は「高齢者福祉」、「防災対策」、「子育て支援」の順となっている

・重点的に進めるべきだと思う分野は、「高齢者福祉」(33.5%)、「防災対策」(28.7%)、「子育て支援」(25.5%)の順となっている。

◆重点的に進めるべきだと思う分野

順	項目	R6	R5 (順)	前年比
1	高齢者福祉	33.5%	33.7% (1)	▲0.2
2	防災対策	28.7%	27.2% (2)	1.5
3	子育て支援	25.5%	26.8% (3)	▲1.3
4	少子化対策	23.6%	24.1% (4)	▲0.5
5	若者の県内定着	22.5%	18.8% (6)	3.7